

平成23年度当初予算関係等
研究評価結果報告書

山形県試験研究機関試験研究課題
山形県試験研究機関業務課題
山形県分野融合・萌芽研究推進事業課題
山形県試験研究機関公募型研究課題

平成23年3月

山形県研究評価委員会

今回報告のあらまし

本報告書は、平成23年度に県試験研究機関が取り組む 試験研究課題および業務課題、 分野融合・萌芽研究推進事業課題、 競争的外部資金を活用して取り組むことを予定している公募型研究課題を対象とした事前評価結果を取りまとめたものである。

内訳は、試験研究115課題、業務38課題、分野融合・萌芽研究推進事業2課題、公募型研究14課題で、合計169課題である。

1 平成23年度県試験研究機関試験研究課題および業務課題の事前評価

1-1 評価対象及び評価方法

県試験研究機関が実施する試験研究115課題および調査・検査、普及指導等の研究以外の業務38課題の合計153課題について、提出された研究計画書等に基づいて評価を行った。さらに、新規課題および研究期間の中間年次に該当する課題など当委員会で選定した課題については、書面評価に加え、技術プレゼンテーションと委員からの質疑内容を加味して評価を行った。これら実施機関別課題数を次表に示す。

機関名	試験研究課題		業務課題	
		うち発表 課題数		うち発表 課題数
生活環境部 環境科学研究センター	1	1		
健康福祉部 衛生研究所	4	2	6	
商工観光部 工業技術センター	20	6	8	
工業技術センター置賜試験場	2			
工業技術センター庄内試験場	2			
農林水産部 農業総合研究センター	13	5	6	
農業総合研究センター園芸試験場	21	10	4	
農業総合研究センター水田農業試験場	8	3	1	
農業総合研究センター畜産試験場	10	5	2	
農業総合研究センター養豚試験場	4	2	1	
水産試験場	5	2	3	
内水面水産試験場	4	2	2	
森林研究研修センター	10	2	5	
村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	1			
最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	4	1		
置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	2	1		
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	4	1		
計	115	43	38	0

1 - 2 評価の視点

(1) 試験研究課題、(2) 業務課題について、各々、評価の視点を次表に示す。

(1) 試験研究課題 (一般研究課題及び公募型研究課題)

評価項目	評価の視点
目的の明確性	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。
研究進度に応じた熟度	当該研究が目指すべき最終成果に対して当該研究が位置する段階を認識し、各段階における知見、技術的課題、連携・協働や公募型研究プロジェクトへの展開可能性などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用(マーケティング)及び実現可能性(フィージビリティ・スタディ)の検討・検証がなされ実用化への道筋が明確になっているか。
研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

(2) 業務課題

評価項目	評価の視点
業務の合目的性	試験研究機関全体としてのミッション(期待される具体的な使命)の中で、当該業務の位置づけや必要性が明らかにされているか。
業務の発展性及び戦略性	当該業務が担う役割や個々の試験研究との関連について検討されているか。これらの情報について有用性や発展性について検討されているか。 相談や検査・調査、普及、指導等の業務を新たな研究開発への展開や地域経済、県民生活に還元しようとしているか。 他機関との連携・協働等について検討されているか。
業務実施体制の適切性	当該業務の内容が、試験研究機関の担っている役割分担や能力に見合っているか、効率的な運営、適切な実施方法が検討されているか。

1 - 3 評価結果の概要

概要を次表に示す。提出された試験研究 115 課題、業務 38 課題について基本的に研究内容は妥当とした。個別課題毎の評価結果と評価委員会による助言・指導については巻末表(表 1、頁 6 ~ 13)のとおりである。

(1) 試験研究課題 (一般研究課題及び公募型研究課題)

評 価 結 果		課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題 (公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)		3
研究計画は概ね適切であり、研究の展開が期待される課題 (公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)		43
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、研究の展開が期待される課題 (公募型研究課題にあつては、内容を精査することにより、提案を妥当とする課題)		69
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	×	0

(2) 業務課題

評 価 結 果		課題数
業務計画が適切であり、実施すべき課題	可	38
業務の内容や目標の設定など業務計画を見直したうえで実施すべき課題	不可	0

2 平成 23 年度県分野融合・萌芽研究推進事業課題の事前評価

2 - 1 評価対象及び評価方法

県分野融合・萌芽研究推進事業は、県試験研究機関の若手研究者が、本県の地域ニーズに対応した研究シーズを発掘するための芽出し研究や基礎研究を行う機会を確保し、かつ将来にむけた分野融合を目指す実用化研究に向けて、ステップアップが図られるよう研究を支援する事業である。

このたびは、2 課題の応募があった。応募課題については、提案書により書面評価を実施した。これらの機関別応募内訳を次表に示す。

機関名	応募課題数
農林水産部 農業総合研究センター	1
森林研究研修センター	1
計	2

2 - 2 評価の視点

書面評価の視点を次表に示す。

評価項目	評価の視点
研究の独創性・明確性	新規性、創造性があるか。 研究目的が明確になっているか。 地域ニーズの把握が適切に行なわれているか。

研究の発展性	本研究期間終了後の展開方向性が明確であるか。
成果波及の可能性	研究成果活用の見通しを明確に保持しているか。 将来の実用化研究に向けた取組みとなる研究であるか。
研究手法の妥当性	目標に至るための様々な手法について検討したうえで適切な研究手法が選択されているか。(広い視野・異分野等)

2 - 3 採択結果

提出された2課題とも採択可と認められる。

個別課題毎の評価結果と評価委員会による助言・指導については、報告書巻末の資料(表2、頁13)のとおりである。

3 平成23年度県試験研究機関公募型研究課題の事前評価

3 - 1 評価対象及び評価方法

国等の競争的外部資金を活用する事業に新たに応募する14課題について、提出された研究計画書等により書面評価を行った。委員からの研究計画への質疑に基づいて、申請の際に参考とするための指導・助言および評価を行った。これら応募機関別課題数を次表に示す。

機関名	課題数
商工観光部 工業技術センター庄内試験場	1
農林水産部 農業総合研究センター	2
農業総合研究センター園芸試験場	6
農業総合研究センター水田農業試験場	2
農業総合研究センター畜産試験場	1
森林研究研修センター	1
庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	1
計	14

3 - 2 評価の視点

評価の視点を次表に示す。

評価項目	評価の視点
目的の明確性	地域ニーズ、社会的要請や行政施策を踏まえ、試験研究の目的や目標を明確にするとともに成果を測る指標等を設定し、定量的に進捗管理できるようになっているか。

研究進度に応じた熟度	当該研究が目指すべき最終成果に対して当該研究が位置する段階を認識し、各段階における知見、技術的課題、連携・協働や公募型研究プロジェクトへの展開可能性などが明確になっているか。
成果波及の可能性	研究成果の活用(マーケティング)及び実現可能性(フィージビリティ・スタディ)の検討・検証がなされ実用化への道筋が明確になっているか。
研究手法の妥当性	アドバイザー・ボード等からの助言指導を受けての対応や、その他研究手法が効率的なものとして組み立てられているか。

3 - 3 評価結果の概要

概要は次表のとおりであり、14課題とも競争的外部資金への応募を可とする。個別課題毎の評価と評価委員会による助言・指導については報告書巻末の資料(表3、頁14)のとおりである。

評価結果		研究課題数
研究計画が適切で、研究の展開が大いに期待される課題 (公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)		0
研究計画は概ね適切であり、研究の展開が期待される課題 (公募型研究課題にあつては、提案を妥当とする課題)		4
研究計画は概ね適切であり、内容を精査することにより、 研究の展開が期待される課題 (公募型研究課題にあつては、内容を精査することにより、 提案を妥当とする課題)		10
研究計画の大幅な見直しが求められる課題	x	0

4 事前評価における全体的意見

- ・縦割りの予算の取り方では、国が重点的に進めるグリーンイノベーションやライフイノベーション分野での外部資金獲得は難しいと考える。これからは、各試験研究機関の得意分野、シーズを明確にし、他部局と横断的に連携し研究を行うことが必要である。
- ・プレゼンテーションは上手くなっているが、研究計画書の内容説明が不十分なものや研究目標の絞込みが不十分な課題が見受けられる。また、なぜ研究を行い、どのような研究成果が出るのか県民目線で説明することが重要である。
- ・試験研究機関ごとに研究発表が行われているが、異なる機関が類似の研究を行っているケースも見受けられ、発表の順番や発表課題の選定など、工夫してはどうか。

表1 平成23年度県試験研究機関研究課題・業務課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
1	鉱油による土壌・地下水汚染の微生物分解に関する研究	環境科学研究センター	一般		既に明らかになっていることと本研究の関係を明確にして研究を進め、住民が安心できるような基準を確立していただきたい。
2	食用菊等県産食材の機能性研究(抗ビロリ菌作用・アルコール摂取に対する作用など)	衛生研究所	一般		食用菊の機能性に関しては、これまでの研究でかなり蓄積されてきているように思われます。今後は、成果の公表や研究の優先順位を明確にして進めてください。
3	自然毒中毒防止のための毒性研究	衛生研究所	一般		山形県がリードしている研究分野です。今後も新たな自然毒成分の解明に取り組んでいただきたいと思います。ポイントを絞ることも大切です。
4	山形県における結核菌の分子疫学解析	衛生研究所	一般		実施の背景についてもっと説明すべき点はありますが、結核菌の系統や感染経路を解明する重要な研究です。
5	最上川流域における野ネズミ寄生ツツガムシ種の季節消長	衛生研究所	一般		ツツガムシの生態を調査する研究であり、その予防対策の上でも大切な調査研究と思います。調査のサンプル数に注意し進めてください。
6	エンテロウイルス71型の遺伝子型解析	衛生研究所	業務	可	エンテロウイルスの遺伝子型を特定し、これまでのデータベースを更に充実させる重要な研究です。結果の活用について考えながら進めてください。
7	マイコプラズマ培養受託	衛生研究所	業務	可	衛生研究所の能力を生かした受託試験と判断します。信頼性の高い抗原検出キットの開発に繋がることを期待します。
8	職員研修(新興再興感染症技術研修)	衛生研究所	業務	可	ウイルス検査の新しい技術を習得する研修です。ウイルス性の食中毒、感染症の検査業務に必要と考えます。
9	職員研修(バイオセーフティ技術講習会:病原体等安全管理技術者養成講座)	衛生研究所	業務	可	微生物及び病原体を安全に取り扱う上で必要な知識・技術を習得するための重要な研修です。
10	職員研修(抗酸菌検査実習コース)	衛生研究所	業務	可	結核菌を含む抗酸菌検査に関する実習は、検査精度の向上及び安全管理の点から必要な研修です。
11	衛生研究所設備整備費	衛生研究所	業務	可	機器の更新により、検査の迅速化に対応できるよう努めて頂きたい。
12	ステンレス鋼品の信頼性向上に係る技術の開発	工業技術センター	公募		ステンレス鋼の耐食性の評価には不確定要因が入りやすいので、これまでの成果を踏まえ、評価方法を工夫して取り組んで頂きたい。
13	片状黒鉛鋳鉄の肉厚感受性低減に関する研究	工業技術センター	一般		片状黒鉛鋳鉄の品質向上に関する評価項目を適切に選定し、強度低下抑制に向け、現場に向けた実用化の研究に努めていただきたい。
14	射出成形による微細形状転写技術の確立	工業技術センター	一般		防犯センサー用などレンズの設計から製作にいたる課題を明確にし、関連する技術開発に取り組んでいただきたい。
15	機械加工による微細構造光学素子用金型の開発	工業技術センター	一般		市場性の高い光学素子へ参入を目指すにあたり、その課題を明確にし、金型や光学素子の試作に取り組んでいただきたい。
16	MEMS技術を用いた極微細金型作製技術の開発	工業技術センター	一般		極微細立体構造を有する金型開発に関連する県内企業のニーズを考慮し、他事業との連携や対象とするデバイス、開発方法を明確に取り組んでいただきたい。
17	低損傷加工技術の確立	工業技術センター	一般		き裂の発生しやすい材料について、き裂深さ等損傷の評価方法だけでもかなり難しい課題です。損傷を防ぐための方法について課題を明確にし、計画的に進めていただきたい。
18	大気圧マイクロプラズマによる軸付き電着砥石の長寿命化	工業技術センター	一般		電着砥石に被覆した機能性被膜の評価方法についても検討するとともに、3年間で達成可能な範囲を精査し、計画的に取り組んで頂きたい。
19	カーボンナノチューブを複合した高性能・超薄型砥石の開発	工業技術センター	公募		カーボンナノチューブは注目されている材料なので、効果が発現するメカニズムの解明、性能の検証を行い、県内企業への導入を視野に入れ、目標達成に向けて進めてください。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
20	光断層画像化法による精密形状計測技術の開発	工業技術センター	一般		光断層画像化法による形状計測と他の計測方法との違いや製品イメージを明確にし、新しい応用分野の開拓に向け、研究を進めていただきたい。
21	MEMS型流体制御素子を用いた生化学分析システムの開発	工業技術センター	一般		MEMSを用いるメリットを活かし、具体的なニーズを十分に調査し、本県が有する得意技術を計画的に発展させてください。
22	カーボンナノチューブを用いた発泡成形体の開発	工業技術センター	一般		カーボンナノチューブの応用技術として興味深いと思います。具体的な目標を設定して、独自技術確立に向け、計画的に進めてください。
23	高分子材料（プラスチック・WPC）の耐候性能評価に関する研究	工業技術センター	一般		山形で評価する必要性について気象要因も含め明確にし、評価項目を検討し取り組んでいただきたい。事業に積極的に参加され、良いデータが出るよう期待します。
24	「山形酒104号」を使用した（純米）大吟醸酒の試験醸造	工業技術センター	一般		県産酒米を用いた大吟醸酒の研究は意義があると考えます。一方、開発期間の短縮や研究の効率化を検討しながら、取り組んでいただきたい。
25	市場ニーズに応える発泡清酒の多様化研究	工業技術センター	一般		発泡性酒については市場調査と研究開発を連動させ、乳酸菌利用のメリットを得られるよう開発を進めてください。
26	県産葡萄を用いた微生物によるワイン醸造技術の開発	工業技術センター	一般		県産ぶどうを使用した貴腐ワイン製造技術の開発については、貴腐化の基礎データ蓄積や天候の影響など、長期的な視点に立ち取り組んでいただきたい。
27	微生物・酵素処理（発酵処理）による新規食肉加工食品の開発	工業技術センター	一般		麹等の微生物を用いた牛肉や豚肉の加工品開発について、他地域での発酵処理の事例、保存衛生上の問題点、目標とする食味などについて課題を明確にして進めていただきたい。
28	粒状ゲルおよび酵素を用いた県産農畜産物加工品の新食感創造	工業技術センター	一般		粒状ゲルを用いた食肉や果実の新加工品の開発にあたって、最適な加工・処理条件の確立と広い分野で利用される技術となるよう期待します。
29	県産紅花を利用したニット原糸の開発	工業技術センター	一般		べにばなを活用した羊毛への新たな染色技術の研究として評価します。出口戦略を立て地域性のある製品の技術開発に結び付けていただきたい。
30	県産スギ材を活用した外構部材の開発	工業技術センター	公募		現場のニーズ、規格基準が不透明などを考慮すると、スギ製サッシ等外構部材への適用が適切なのか、実用化の可能性を十分に検討しながらすすめていただきたい。
31	プラスチックベレット品質管理システムの高度化開発	工業技術センター	公募		研究計画、目標ともに明確かつ具体的で必要性の高い装置だと思えます。先行研究を調査し、使いやすい機器を効率的に開発していただきたい。
32	企画情報事業	工業技術センター	業務	可	県内企業の技術力向上を目指して取組んでください。
33	高度技術者育成支援事業	工業技術センター	業務	可	若手研究員の能力向上を目指して継続的に取り組んで下さい。
34	施設・試験研究機器保守検定事業	工業技術センター	業務	可	県内民間企業への技術指導、受託試験・分析で使用する試験機器の信頼性確保のため必要な業務と考えられます。
35	ものづくり企業支援事業	工業技術センター	業務	可	県内企業の課題解決に対応できる重要な業務と考えられます。
36	指導試験事業	工業技術センター	業務	可	中小企業等への技術指導・相談などの支援について体制を整えながら取組んでください。
37	低炭素社会適応型製造業競争力強化事業	工業技術センター	業務	可	中小工場向け省エネ診断システムの実証については、他の事業と連携し、地域の低炭素化社会の構築を目指す流れに貢献でき、モデルケースの構築に重要と考えられます。
38	デザイン振興事業	工業技術センター	業務	可	県内工場企業の競争力を高めるデザインは商品価値を高め、今後ますます重要になると考えられます。
39	委託分析試験事業	工業技術センター	業務	可	県内中小企業からの依頼試験や検査機器の貸付など重要な業務と考えられます。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
40	介護寝巻用高機能テキスタイルの開発	工業技術センター置賜試験場	一般		介護寝巻きに必要となる機能性等の技術課題をより精査して研究を進めてください。
41	生産現場における品質向上のためのセンサデータ収集・活用技術	工業技術センター置賜試験場	一般		現場のニーズに対応した課題です。対象を明確にした上で技術開発してください。
42	機能性を活かした食品加工技術開発と商品開発	工業技術センター庄内試験場	公募		研究成果を広く活用できるよう、実用化・製品化に向けて開発を進め、消費者のニーズにあった技術にしてください。
43	庄内特産果実(日本梨)の高度加工技術開発	工業技術センター庄内試験場	一般		刈屋梨の特徴を十分に活かし、コスト面も考慮しながら研究を進めてください。
44	県産米利用促進のための米粉生産・加工技術の開発	農業総合研究センター	一般		市場調査を行い、ニーズにあった製品に合わせて加工技術も開発することが重要と思います。オリジナリティのある研究開発を目指してください。
45	水稲害虫フタオビコヤガの効率的防除体系の開発	農業総合研究センター	一般		本研究は新規性というよりも、水稲害虫の効率的防除を目的とした具体的な研究として価値があります。発生状況を精査し、説得力ある結果を出していただきたい。
46	野菜等におけるPOPsのリスク低減技術の開発	農業総合研究センター	公募		研究の効率化と重点化を図り、進めてください。ファイトレメディエーションや吸収抑制などの技術と組合せた総合的な対応技術の開発を期待します。
47	東北地域の葉菜畑におけるファイトレメディエーション技術の開発	農業総合研究センター	公募		土壌の汚染を恒久的に除去できる技術として期待します。コスト低下についても留意していただきたい。
48	フェロモントラップを基幹としたアカヒゲホソミドリカスミカメ高度発生予察技術の開発	農業総合研究センター	公募		減農薬は生産者にとっても消費者にとっても興味ある問題であり、環境に配慮しながら、カメムシ被害を最小限に食い止める予測技術として期待します。
49	水田土壌におけるリン酸施肥削減技術の開発	農業総合研究センター	公募		少ないリン酸資源を有効に活用する上でも取り組むべき課題と思います。土壌特性などの異なる水田に合わせた減肥方法等も明らかにできることを期待します。
50	メタン発生量低減のための稲わら腐熟促進技術の確立	農業総合研究センター	公募		このメタン発生が全体の温室効果ガスに占める割合等、全体像をわかりやすく説明することが重要です。促進剤については、山形で得られるものの再利用も検討いただきたい。
51	やまぶどうの高付加価値商品開発のための加工技術の開発	農業総合研究センター	一般		早めにターゲットとなる製品を具体的に設定し、それに向けて加工等の条件を設定すると良いと思います。やまぶどうは果皮が厚いので、その成分をうまく取り込んだものを作るなど、やまぶどうの性質を十分に生かした付加価値の高い食品素材の開発を期待します。
52	県産えだまめ利用促進のための鮮度保持・加工技術の確立	農業総合研究センター	一般		えだまめの消費向上に繋がる研究として価値があります。具体的に目標とする数値等を早めに設定するとともに、加工処理におけるコストも常に考慮に入れて開発を推進していただきたい。
53	べにばな若菜を主とした食用栽培技術及び染色用高品質加工技術の確立	農業総合研究センター	一般		研究内容の絞込みが必要だと思います。作る側からの取り組みだけでなく、消費する側からの要求も大切にして進めていただきたい。
54	第2期そば優良品種の開発	農業総合研究センター	一般		湿害の発生に対しては、品種でなく、育て方で改善できる可能性もあります。地元産そば粉の割合をさらに高められるよう努力いただきたい。
55	土地利用型作物の生産を支援する新たな大豆栽培体系の確立	農業総合研究センター	一般		地域に適応した栽培技術の確立を目指す研究として評価します。研究を進めるに当たっては、的を絞って検討することが重要です。
56	寒冷地における直播活用等による飼料用米低コスト多収生産技術の確立	農業総合研究センター	公募		飼料米の低コスト生産技術の開発を目指す研究として評価します。低コスト化した場合に、予想される問題点を明かにしておく必要があります。
57	農産物加工開発技術指導	農業総合研究センター	業務	可	農産物の高付加価値化にとって大切な事業であり、特色ある製品が出ることを期待します。費用対効果の検証も必要と考えます。
58	水稲畑作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター	業務	可	奨励品種選定のための調査を行うものであり、産地評価向上のため、精度の高い品種決定に結び付けてほしい。
59	新農薬(殺虫剤・殺菌剤)の効果と使用法試験	農業総合研究センター	業務	可	新たに開発された農薬について地域特性をもとに実用性の検討を行うもので、安全な農薬の使用量設定に不可欠な業務の一つと思います。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
60	新除草剤及び新植物調節剤に関する試験	農業総合研究センター	業務	可	新たに開発された除草剤や植物成長調整剤について地域特性をもとに実用性の検討を行うもので、安全性に考慮して進めて頂きたい。
61	新肥料及び新資材に関する試験	農業総合研究センター	業務	可	新たに開発された肥料や生産資材について地域特性をもとに実用性の検討を行うもので、本県に適した使用方法を確立して頂きたい。
62	水稲奨励品種の発芽特性調査	農業総合研究センター	業務	可	県の主要な水稲奨励品種について、種を浸漬する温度と発芽特性、登熟気温と休眠及び発芽特性を明らかにするものであり、安定生産につなげて頂きたい。
63	第4期山形県りんごオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		長期的視点での研究になりますが、消費者の嗜好を反映させた品種が開発されることを期待します。
64	細霧発生装置利用によるおうとうの安定生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		設置・維持費などのコスト評価を踏まえ、取り組んでください。おうとうの病気と日射・細霧の相関関係についても総合的に検討してください。
65	積雪寒冷地型ヒートポンプシステムと効率の利用技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		低炭素化社会実現に向けて、低コスト化を実現し導入可能になるように期待します。
66	オリジナル四季成りいちごの産地化技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		複数の技術的課題に対応できるよう研究の進捗状況をしっかり管理しながら、産地化技術の開発を目指し、普及のための技術確立に努めてください。
67	りんご早生有望品種「ファーストレディ」の早期成園化と安定生産技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	一般		新品種りんごの普及・拡大にとって必要な研究です。今年のような猛暑におけるミツ漏出症の対策も必要と考えます。
68	気象変動に負けないおうとう高品質安定生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		温暖化対策としておうとうの安定的な生産のために迅速な対応が必要と考えます。有効な技術の早期確立を期待します。
69	ばら養液栽培における日射及び水分センサを用いた自動給液制御技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	一般		各手法の比較をしっかりとすうえて、最適な組合せ条件の確立とコスト削減を考慮して取り組んでください。
70	ぶどうのクビアカスカシバ防除対策の確立	農業総合研究センター園芸試験場	一般		緊急に取り組む課題であると思います。害虫の生態に基づき、計画的に対策確立を進めてください。
71	おうとう新品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		これまでの成果を検討した上で、新たな品種開発に反映させてください。品種開発にあたり、栽培特性だけでなく、嗜好性についても考慮いただきたい。
72	第6期山形県西洋なしオリジナル優良品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		生産者のみならず、消費者のニーズの高い新品種開発に期待します。
73	食用ぎくの品種開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		特徴ある品種の開発を期待します。
74	りんどうオリジナル新品種の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		研究戦略がしっかりしており、競争力のある品種はどのようなものかもさらに検討の上、開発されることを期待します。
75	地域遺伝資源「食用ぎく」における系統識別技術と優良系統の開発	農業総合研究センター園芸試験場	公募		本取り組みはブランド保護や差別化の手段として重要と考えます。この研究成果を応用して、より付加価値の高い品種の開発に努めてください。
76	果実が大きくなる機構解明のための大果変異西洋なしのゲノム解析	農業総合研究センター園芸試験場	公募		大果機構の解明のための基礎研究として重要なテーマだと思えます。知的財産や学会等に対する成果を特に期待します。
77	果樹のDNAマーカーを利用した効率的選抜法の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		果樹の早期選抜に有効な手法と考えられ、波及効果の高い研究課題だと思えます。早期の技術確立を期待します。
78	すいか産地の競争力強化生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	一般		消費者ニーズをしっかりと把握して研究開発に活かしていただきたい。課題については省力化に絞って取り組んでもよいと思えます。
79	きく等主要花き類の光応答解析に基づく効率的生産・出荷技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	公募		実験条件について十分な検討を行い、基礎データを着実に収集のうえ、実用化につなげてください。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
80	アスパラガス周年供給に向けた促成用根株養成技術の確立	農業総合研究センター園芸試験場	公募		収量増と同時に品質、低コスト化も求められます。これらの点についても考慮のうえ、最適な技術確立を望みます。
81	おいしいさくらんぼをどこにでも送れる損傷ゼロパッケージ技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場	公募		消費拡大にむけ、有効な課題だと思います。低コスト化、技術的な課題の明確化を早期に行うことを期待します。
82	農産物の機能性を高める栽培技術の開発と品種育成	農業総合研究センター園芸試験場	公募		機能性を付加価値とした品種育成は今後重要になってくると考えます。
83	加工・業務需要野菜栽培システムの確立	農業総合研究センター園芸試験場	一般		農業者、加工業者と連携しながら、低コスト省力生産など栽培技術の検討をしっかりとすうえで、研究計画に反映させるようにしてください。
84	温暖化に対応した果樹・野菜・牧草・林木の適応性調査	農業総合研究センター園芸試験場	業務	可	将来のニーズもしっかり検討のうえ、対策を明確にして取り組んでください。
85	園芸作物奨励品種決定調査	農業総合研究センター園芸試験場	業務	可	現場普及に取って重要と考えますので、本県に適した品種の選定を期待します。
86	特産園芸作物の原種苗供給	農業総合研究センター園芸試験場	業務	可	重要な業務と考えます。産地の安定生産に向け、対応してください。
87	野菜花き民間育成品種評価	農業総合研究センター園芸試験場	業務	可	迅速な優良品種の選定を期待します。
88	「つや姫」のブランド向上技術の構築	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		米の美味しさは調理の条件にも影響を受けると思います。家政系調理を専門とする研究者との共同研究も視野に入れ、炊飯特性等、消費者への情報提供を行ってください。
89	温暖化に対応した水稻の安定生産技術の開発	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		温暖化に対処する生産技術をどのように開発するかの議論があってもよいと思います。ある程度緊急性を要する課題もありますので、スピードのある開発と常に目的を明確にして取り組まれることを期待します。
90	水稻用豚ふん堆肥ペレットの製造と効率的省資源型施用技術の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	公募		肥効特性の評価方法及び安全性について明らかにして研究を進め、未利用資源の有効利用が図られることを期待します。
91	第一期水稻主力品種の育成	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		作る側から課題を絞るのではなく、消費者側からの課題も探る必要があると思われる。また、海外への輸出等も見据えた品種開発を期待します。
92	第一期地域特産型水稻品種の育成	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		酒米の育成に当たっては、酒造メーカー等と連携し、求められる品種の育成に努めてください。また、県内のみならず、広範なニーズに応える戦略を期待します。
93	DNAマーカー利用による水稻の高精度な育種法の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		蓄積技術を地域にあった品種の改良に役立てるとともに、研究期間の後半では現地での実証試験を重視することが重要であると考えます。
94	水稻新品種「山形95号」の栽培法の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		いもち病以外の病気や気候変動等も視野に入れた上で、適切な栽培法が確立することを期待します。
95	山形県における水稻有機栽培技術の確立	農業総合研究センター水田農業試験場	一般		有機栽培の効果について科学的な解明を行い、栽培マニュアルが作成できればよいと思います。また、有機栽培での特徴的な品質も示せば良いと思います。
96	農作物作柄診断解析調査	農業総合研究センター水田農業試験場	業務	可	継続的な調査が必要な課題です。同時に、この調査結果が各農家の判断に実際に十分活かされているのかどうか検証することも重要です。
97	暑熱ストレス軽減のための家畜飼養技術の確立	農業総合研究センター畜産試験場	一般		暑熱ストレスが家畜に与える影響について得られたデータを十分に分析し、温暖化に対応した家畜飼養技術を確立していただきたい。
98	膨軟化初米の加工・調整ならびに給与技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	公募		加工・調整に要するエネルギー収支や低コスト化も重要と考えられますので、その点も考慮した開発に期待します。
99	飼料用米ペレット飼料の給与が乳牛の反芻生理と生産性に及ぼす影響について	農業総合研究センター畜産試験場	公募		技術的要素と経済的要素の両方について基礎的なデータを収集し、国内産飼料の有効活用を期待します。さらに、飼料用米を与えた乳牛の健康や乳量などの詳しい情報が得られることを期待します。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
100	自給飼料主体の飼料給与が生乳の成分および食味等に及ぼす影響について	農業総合研究センター畜産試験場	一般		飼料で生乳の成分が変化するという知見を明らかにする意味では面白い研究です。牛の個体差や気象など生育環境の違いなどにより、変動も予想されるので、研究内容については十分吟味して行なう必要があると考えます。
101	牛超急速ガラス化保存胚の実用化に向けたダイレクト移植技術の確立	農業総合研究センター畜産試験場	一般		受胎率の向上に加え、胚をロスすることなく、簡単に確実に保存可能な器具の商品化につながる可能性がある研究であり、成果に期待します。
102	山形牛の「甘み」成分の客観的評価及び遺伝的向上技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	一般		グリコーゲンは動物の栄養状態、ストレス状態に影響を受けやすく、エネルギー源など重要な生理機能をつかさどっており、甘みのマーカールとしては変動しやすいかもしれません。また、単糖類までの中間代謝産物に対する検討も必要と考えます。
103	発生アンモニア回収による堆肥舎の腐食軽減技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	一般		完熟堆肥がどのようにアンモニアを吸着するのか、あるいはアンモニアが酸化しているのではないのか等、現象の発現メカニズムについて調べながら研究を進めてください。
104	肥育牛の飼料効率改善効果の高い穀類加工形態の解明	農業総合研究センター畜産試験場	一般		飼料米等の効率的給与という点で重要性があると思います。実際のコスト、効果等を含めた全体的な組み合わせを考えていくとのことで、最適な条件を見つけていただきたいと思います。
105	遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発	農業総合研究センター畜産試験場	公募		実際に不飽和脂肪酸を測定するなど、生化学的測定も行うと良いと思います。また、制御に関わるのは、飼料組成が成分かなども含めて検討することが必要です。食味の評価に関しては、官能検査も必要であると思います。
106	県有種雄牛産子の発育性の評価とそれに基づく育成技術の組み立て	農業総合研究センター畜産試験場	一般		基礎データを集め、哺育育成技術の平準化に活かすとともに、県有牛の特長を明確にし、それを伸ばしていく技術の確立を期待します。
107	飼料作物優良品種選定調査	農業総合研究センター畜産試験場	業務	可	本県の気象条件に適した牧草の選抜にもつながり、迅速な適応性の検討を期待します。
108	黒毛和種集団における経済形質、疾病等に関わる遺伝子の遺伝子頻度の分布と遺伝的多様性・構造化の解明	農業総合研究センター畜産試験場	業務	可	和牛の遺伝的背景を明らかにするためにも、重要な研究であると考えます。
109	豚凍結精液の効率利用技術の確立	農業総合研究センター養豚試験場	一般		研究成果を繁殖成績につなげるためには、生理学的メカニズムの解明が必要と思われます。また、豚人工授精に用いる精液の凍結方法の開発は、現場のニーズに対応した独自性のある研究であり、成果に期待します。
110	未利用資源炭化物の大腸菌産生毒素吸着能の検討	農業総合研究センター養豚試験場	一般		単年度の研究としては研究内容が多いように感じます。優先順位を付け、実験計画を詳細にたてて取組んでいただきたいと思います。
111	エクストルーダー処理した高消化性飼料米の豚への給与と技術の開発	農業総合研究センター養豚試験場	公募		飼養成績に、豚の消化器官の生理学的特性を踏まえた評価も検討すると良いと思います。また、エクストルーダー処理の場合、使用する圧力によって結果が異なる可能性もありますので、コスト評価を充分に行う必要があると考えます。
112	豚に対する飼料用米給与と技術の確立	農業総合研究センター養豚試験場	一般		粉碎米とエクストルーダー処理との比較を行うなどして再現性の高い評価法を確立し、客観的データ評価ができることを期待します。
113	中ヨークシャー種を利用した銘柄豚の確立	農業総合研究センター養豚試験場	業務	可	付加価値の高い豚の育成技術の確立となることを期待します。
114	地球温暖化モニタリングと大型クロマグロの漁場形成要因の解明	水産試験場	一般		長期的な視点に立って、隣県と連携しながら現場の役に立つデータを収集していただきたいと思います。
115	藻場変化予測技術の開発	水産試験場	一般		藻場の研究は土木系でも行われていることから土木系や環境系の文献調査を行う等、しっかりとした研究計画を立て他機関と密に連携して進めていただきたいと思います。
116	漁獲加入量予測モデル開発事業	水産試験場	一般		漁獲加入量の予測と発生機構の解明は漁業にとって重要な課題です。予測モデルの開発と検証は時間がかかりますが、他の研究も参考にし、着実に成果を挙げられることを期待します。
117	ナマコの資源診断とその対策の研究	水産試験場	一般		資源管理という側面から重要な取り組みであり、漁業者等の意見も取り入れながらしっかりとした研究計画を立て取り組んでいただきたいと思います。
118	ソフトシェルクラブ生産実用化（真菌症対策）のための技術開発	水産試験場	一般		研究を進める上で、真菌症対策を優先する等、研究目標を明確にして課題に取り組む必要があると思います。
119	新漁業管理制度推進情報提供事業	水産試験場	業務	可	漁業資源の持続的な利用にとって必要な事業であり、貴重なデータが得られていると思います。重要な課題ですので今後の取り組みに期待します。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
120	底びき網漁業活性化対策調査	水産試験場	業務	可	重要な課題です。有効な情報提供に努めてください。
121	サケ・サクラマス資源調査	水産試験場	業務	可	調査結果をどのように資源維持増大に結びつけるのか。その視点をもって取り組んで頂きたい。
122	地球温暖化に対応したサケ増殖技術の開発	内水面水産試験場	一般		温暖化対策として重要な課題ですが、サケの生存性を単純に捉えるのではなく、実環境の水温やこれまでのサイズと生き残り率、水温と生存性の関係など、既往の研究を示しながら、因果関係を明確にした研究計画を立てて実施していただきたい。
123	イワナの在来個体群の保全及び利用技術の開発	内水面水産試験場	一般		資源の安定化と釣り人の増加が期待できる課題と考えます。資源の維持増大に向け努力して頂きたい。
124	最上川水系におけるアユ資源量調査技術の開発	内水面水産試験場	一般		支流での遡上量の計測値から本流での遡上量を推定するモデルの信頼性を高める必要があります。また、ある程度長期間のデータが必要と考えられることから、あゆの資源管理として有効なデータが得られるよう研究計画を十分検討し、取組むことを期待します。
125	休耕田を利用した複合養殖技術の開発	内水面水産試験場	一般		リスクを分散させた複合養殖という考えは重要です。また、開発と並行して市場を開発することも重要と考えられます。現状を改善するために、何をどう実施して評価するのか明確にして取り組んでいただきたい。
126	内水面重要魚種（アユ、サクラマス）の資源動向及び河川環境モニタリング	内水面水産試験場	業務	可	河川環境との関連も同時にモニタリングできる簡便なシステムがあるとよいと思います。基礎データの蓄積に努力して頂きたい。
127	増養殖技術指導	内水面水産試験場	業務	可	最も基本的で重要な課題です。メリハリを付けて支援して行って頂きたい。
128	県産スギ材の乾燥特性を踏まえた建築用材及びバイオマスとしての利用技術の開発	森林研究研修センター	一般		建築用材とバイオマスとしての利用技術の開発を並行して進める際に、研究を効率的に進めることに留意してください。先行事例を参考にしながら課題を明確化して計画的に取り組んで頂きたい。
129	次世代スギ品種の開発と実用化に関する研究	森林研究研修センター	一般		長期的な視点に立って取組むべき課題であり、成果を期待します。
130	高齢広葉樹林・病害虫被害林の早期再生に向けた管理技術の開発	森林研究研修センター	一般		更新環境要因の評価と実生更新メカニズムの解明を優先し、そこから具体的な管理技術が開発されることを期待します。
131	スギ過密人工林の管理手法の確立	森林研究研修センター	一般		森林の管理の研究は社会的な意義が大きくなってきています。従来の方と法の違いやメリット等を明確にし、適切な管理手法を確立していただきたい。
132	庄内海岸クロマツ林の健全管理・更新手法の確立	森林研究研修センター	一般		過去のデータも有効に利用してモデルを作るように期待します。長期の研究期間を要する課題ですが、適正な管理手法の確立に向け努力して頂きたい。
133	原木栽培に適するキノコ系統の作出	森林研究研修センター	一般		研究会を計画するなど検討が進んでおり、評価できます。適正な管理手法の確立に向け努力して頂きたい。また、現場普及のために、研究のスピードアップを期待します。
134	コシアブラ・ネマガリタケの効率的育成技術の開発	森林研究研修センター	一般		コシアブラ、ネマガリタケともに栽培についての先進県との競争になることから、生産コスト等などについても検討が必要です。そして、これまでの研究成果を活かし、本県の特産品となるよう、栽培技術の確立に努力していただきたい。
135	カツラマルカイガラムシ被害における天敵・寄主関係への温暖化影響予測技術の開発	森林研究研修センター	公募		緊急の課題であり、カイガラムシによる広葉樹被害の軽減に関する研究として評価します。計画も具体的であり、成果を期待します。
136	温暖化がもたらす時間的隠れ家の増大によるカイガラムシのエスケープの検証	森林研究研修センター	公募		早期に取組むべき課題であり、時間的な制約もあることから迅速に対応頂きたい。
137	広葉樹林化のための更新予測および誘導技術の開発	森林研究研修センター	公募		一定の成果が出ていると思います。共同研究機関との連携に留意し、情報を共有するとともに、これらの成果をどのように広葉樹林の拡大に繋げるかについても今後検討していただきたい。
138	ナラ枯れ予防剤に関する試験	森林研究研修センター	業務	可	ナラ枯れ防除の普及のための試験として評価します。緊急の課題であることから、他の活動とも連携し、迅速に取り組んで頂きたい。
139	突発性森林病虫獣害の調査	森林研究研修センター	業務	可	ナラ枯れ病対策など重要な課題です。有益なデータの収集に努めて頂きたい。

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果		評価委員会指導・助言
			区分	評価	
140	白色系ナメコの栽培に適する系統の調査	森林研究研修センター	業務	可	従来のナメコとは異なる点に面白みがあります。消費サイドでどのような付加価値を見出せるか市場調査もしっかり行なって頂きたい。
141	間伐材利用拡大システム調査	森林研究研修センター	業務	可	スギ欠点材の利用について最初に成果の出口を明確にして研究を行った方が良いと思われます。地域資源の有効利用に向け努力していただきたい。
142	非選択性除草剤による除伐・下刈の省力化試験	森林研究研修センター	業務	可	本課題は受託試験として行う予定のものです。今後現場に適用拡大された際に、どのような影響が生じるか懸念される面もあります。細心の注意をもって実施して頂きたい。
143	おうとう安定生産技術の開発	村山総合支庁産地研究室	一般		おうとうの安定生産に向けて一定の成果を挙げていると考えます。現状の課題を明確にし、現場への普及を考慮した研究内容の重点化を図ってください。
144	国産ラズベリーの市場創出および定着のための生産・流通技術の開発	最上総合支庁産地研究室	公募		東北の冷涼な気候にあった生産技術の開発は高品質なラズベリーを生産する上で期待が持たれます。生産コストの低減に留意し、地域の活性化につながるよう取り組んでください。
145	耕作放棄地からの価値創出！わらびの早期成圃化技術の開発	最上総合支庁産地研究室	公募		中山間地域での省力的農業と土地の有効利用の面でも価値の高い課題と考えます。労力の低減と低コスト化が重要と考えますので、実用化に向けて具体的な目標を設定し成果を積み重ねてください。
146	山菜オリジナル品種の開発と生産技術の確立	最上総合支庁産地研究室	一般		山形県の特産山菜の高付加価値化を目指したニーズに合った課題と評価します。何をもちえてオリジナル品種の特徴をアピールしていくかを検討することが重要と考えます。流通の場まで考慮し、他の機関と連携しながら研究を進めてください。
147	新たな産地育成のためのベリー類の品種特性の解明	最上総合支庁産地研究室	一般		自生キイチゴなど本県で特徴のあるものに力点を置き、機能性成分の分析や生産者のニーズに合わせたマニュアルの作成なども検討してください。
148	県産主要花きにおける高温期の生産流通に対応した切り花品質管理技術の開発	置賜総合支庁産地研究室	公募		高温期の花持ち保証にはどのような要因が効いてくるのかを明確にし、研究手法に独自性を出しながら栽培条件の効果をしっかり評価してください。
149	地域特産作物「薄皮丸なす」の安定生産技術の確立	置賜総合支庁産地研究室	一般		薄皮丸なすの生産技術の改良として大変興味深い課題です。ブランド化を目指し、収量向上につながるデータが収集できることを期待します。
150	低炭素時代にむけた自然エネルギー利用率を最大限に高める施設栽培用ヒートポンプシステムの開発	庄内総合支庁産地研究室	公募		今後有望な分野になる課題と思われます。関係機関との連携を密にし、経済性を十分念頭に置きながら、県内の作物生育に適したシステムの確立に向け取り組んでください。
151	いちごオリジナル新品種開発	庄内総合支庁産地研究室	一般		付加価値の高いいちごの新品種を開発するニーズの高い課題です。これまでの進行状況を明確にし、他産地との競争に勝ち残るためのしっかりとした成果を期待します。
152	新品種を主体としたおうとう産地化を目指す生産技術の確立	庄内総合支庁産地研究室	一般		庄内地域におけるおうとうの新しい産地化形成を目指す課題と評価します。研究を進めると同時に、成果の普及により農家の生産性や管理技術の高度化を図り、品質向上や生産拡大に努めてください。
153	えだまめのさや汚損軽減対策技術開発	庄内総合支庁産地研究室	一般		庄内産えだまめの品質低下の原因を早急に明らかにするのに必要な課題と考えます。他の機関とも連携しながら、計画的に原因究明に向けて取り組んでください。

表2 平成23年度県分野融合・萌芽研究推進事業課題 事前評価

整理番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果	評価委員会指導・助言
1	ラ・フランスのオリジナリティを活用した新食感セミドライフルーツの商品化	農業総合研究センター		食感・貯蔵・マーケティング等、広い視点を求められる取組みです。計画を具体的に検討して行くことが大切です。
2	やまがたバンブー里山活用プロジェクト（竹林被害の実態把握と管理技術の開発）	森林研究研修センター		管理放棄竹林の分布調査は非常に重要であり、それを管理手法にまでつなげる事が求められています。また、竹の利活用については、竹を素材とした製品の付加価値化のための調査・研究が重要です。これらの課題に対する積極的な展開を期待します。

表3 平成23年度県試験研究機関公募型研究課題 事前評価

資料番号	研究課題名	試験研究機関	外部評価結果	申請	評価委員会指導・助言
				可否	
1	地域資源を活かし「米粉」の新たな需要拡大を目指す基盤技術の開発	工業技術センター庄内試験場		可	消費者ニーズを踏まえた「米粉」という観点に立って研究・開発をする必要があります。
2	先進的気象データを利用した水稲主要病害虫の発生予測モデルの構築	農業総合研究センター		可	気象条件と病害虫発生との因果関係に関する確実なデータの蓄積と、気象予測技術の精度向上を図り、より良いモデルとなるよう取り組んでください。
3	水田における難防除雑草の発生実態に即する対策の検討	農業総合研究センター		可	水田管理の上から重要な課題です。難防除雑草の発生調査では、ポイントを絞り、解明すべき点を明確にして実施してください。
4	消費者がおいしい西洋なしを食べるための「簡易食べ頃判定技術」の確立	園芸試験場		可	食べ頃判定技術が確立されれば消費拡大につながると考えますが、判定の基準や方法及び利用場面について検討が必要です。
5	DNAマーカーを利用した自家和合性おとうと新品種・系統の開発	農業総合研究センター園芸試験場		可	DNAマーカーの効果的利用により、収穫労力の分散も可能となる優良おとうと新品種の開発につながる成果を期待します。
6	おとうと苗木における根頭がんしゅ病の耕種的・生物的防除法による防除技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場		可	新規拮抗細菌の適応可能性についておとうととぶどうで比較検討し進めてください。拮抗細菌の効果であることをきっちり評価するには、評価方法の十分な検討が必要です。
7	性フェロモンを利用したりんごのヒメボクトウ被害低減技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場		可	性フェロモンの効果について、基礎データも得られており成果が期待できる取組みだと思います。実用化に向けて研究を進めてください。
8	転炉スラグを活用した県産アブラナ科野菜の安定生産技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場		可	実用化までには多面的な評価が必要になると思います。安全性や土壌微生物への影響等、十分に調査・検討を行ってください。
9	さくら切り枝の安定促成技術の開発	農業総合研究センター園芸試験場		可	これまでの知見の検証・応用の点からも、取り組むべき研究であり、コスト面も検討しながら、進めてください。
10	温暖化に対応した水稲の高温耐性検定法の確立	農業総合研究センター水田農業試験場		可	高温現象は様々なケースが考えられるので、その多様性を想定した検定法の確立に取り組んで頂きたい。
11	新たな水田除草機を用いた栽培技術の検証と除草能力評価	農業総合研究センター水田農業試験場		可	特長ある興味深い取組みです。成果を得るための具体的な研究計画、必要とする除草機器の能力、評価方法などに十分注意し取り組んで頂きたい。
12	新たな形質を取り入れた牛の遺伝的能力評価法による種雄牛の作出	農業総合研究センター畜産試験場		可	一塩基多型など遺伝情報を利用した種雄牛の改良を目指す独創的取組みとして期待します。どのような食味が求められているのか等のニーズについても検討し進めてください。
13	生物多様性保全に対するナラ枯れのリスク解明	森林研究研修センター		可	ナラ枯れの影響を森林植生とそこに住む動物との関わりを解明する興味深い取組みです。実施に際しては、視点を明確にし、計画的に取組み、ナラ枯れの抑制や森林の再生に結び付けてください。
14	カラーピーマンの光照射追熟技術を利用した増収栽培技術の開発	庄内産地研究室		可	これまでの研究成果を活かした実用化の高い研究開発と考えます。早取りによる鮮度、味、栄養価等の低下も考慮してください。